

マルコの福音書 8 章 34 節-9 章 1 節 弟子となることへの招き

今日は 8 章の終わりを見て行きます。これまで読んできたマルコの福音書の前半は、「イエスはキリストです」とペテロが告白するクライマックスの場面に向かっていました。そして今日の聖書箇所、転換点を迎えることとなります。今日の箇所は、このペテロの告白から、イエスの十字架への道のりへと私たちを導き始める部分です。先週は、イエスが、ご自分がこれから迎えようとしている十字架の上での死について、はっきりと 3 回予言されたのを見ました。そしてこの十字架についての予言の後、イエスは、ご自分についてこようとするものに、イエスとともに十字架につけられ、イエスと自分を重ね合わさなければならぬという真実をつきつけます。これは、私たちにも求められていることです。先週の聖書箇所です。ペテロが「あなたはキリストです」と告白したその言葉は、その後同じように、イエスを自分のキリスト、つまり救い主であるとして、イエスにつき従って行こうとする、全ての弟子の告白であるからです。そして今日のマルコの福音書 8 章 34 節から 9 章 1 節で、**弟子となることへの招きは、十字架への招きであることが示されます。**ではまず、今日の聖書箇所全体を読みましょう。**それから、群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた。「だれでもわたしに従って来なければ、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。³⁵ 自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音のためにいのちを失う者は、それを救うのです。³⁶ 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分のいのちを失ったら、何の益があるでしょうか。³⁷ 自分のいのちを買い戻すのに、人はいったい何を差し出せばよいのでしょうか。³⁸ だれでも、このような姦淫と罪の時代にあつて、わたしとわたしのことばを恥じるなら、人の子も、父の栄光を帯びて聖なる御使いたちとともに来るとき、その人を恥じます。」**9¹ **またイエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに言います。ここに立っている人々の中には、神の国が力をもって到来しているのを見るまで、決して死を味わわない人たちがいます。」**

イエスはここで、イエスの弟子となることの意味するのにかについて、はっきりと、そして強烈に宣言しています。そしてこの宣言は、既に弟子となっているうちの 12 人だけに向けられたのではなく、イエスについて来た全ての人々に対して与えられた、弟子となることへの招きでした。この招きは、イエスにつき従う者となることはどういうことを意味するのか、と考えていた人々だけでなく、既にイエスに従っている人々にも与えられたものであるということです。イエスを自分の主であり救い主として受け入れることは、**「だれでもわたしに従って来なければ、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。」**—この言葉のとおり生きる、と同意することを意味します。21 世紀に生きる私たちには、この言葉が本来どれほど衝撃的であったかわかりにくいでしょう。これは、イエスが十字架につけられ死ぬ前のことです。御子なる神を十字架につけるといふ神のご計画について、はっきりと知らされていたのも 12 人の弟子たちだけでした。ですから、聞いた人々にとって、イエスの言葉から永遠の救いは連想できず、非常に嫌なものとして拒否したくなるのが自然です。十字架は、ローマ人社会において、最悪な死の象徴だったからです。何千もの犯罪者がこの方法で処刑されていた上、ほかの社会で行われていた十字架刑に比べ、ローマでは、十字架による苦しみができるだけ長く続いてから死に至るように、あらゆる手が尽くされていました。それは血みどろで見るにも耐えがたいものでしたが、ローマ当局はこの処刑を、街に出入りする誰もが見えるような場所で行い、人々への見せしめとしていました。死刑に定められた犯罪者は、イエスが後になさったように、自分がその上で死ぬための十字架を、自分の恥の象徴として背負い、街の通りを歩いて、処刑場所まで行きます。ですから、イエスが**「自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい」とい**うとき、これは恐ろしい苦しみ、確実な死に至る、耐え難い重荷を負う姿を示しているのです。しかしイエスは、この招きを軽いものに見せかけたり、聞き入れやすくしようとしたりしていません。弟子となることへの招きは、自分のために生きるのではなく、世の人々から蔑まれ、痛みと苦難を伴う迫害を受け入れることも厭わず、イエスにつき従って行くことへの招きなのです。

ここで再度、イエスはまだ死んでおらず、彼の言葉を聞いていたほとんどの人が、後にイエスが十字架につけられるとも知らなかったことを思い出してください。しかし聞いていた人々は、彼に従って来る者が、どのように生きることになると言っているのかはよく理解できました。それを聞いて、もしあなたがこの群衆の一人だったら、手を挙げて、イエスについていきますと志願するのでしょうか？正直、イエスに従うグループに飛び込んでいく人は少ないのではないのでしょうか。実に、イエスの十字架での死が近づくとつれ、イエスについて行く人は少なくなり、群衆は最後には、「イエスを十字

架につける」と叫んでいたほどです。では、なぜ苦しみ、恥、この世からの拒絶を経験してでもイエスにつき従って行くべきなのでしょう。なぜイエスに従って行くために、自分自身を死に至らしめる十字架を、背負うべきなのでしょう。イエスはその理由について、続く聖書箇所、4つの答えを示しています。1つめの答えは35節にあります。なぜ私たちは、十字架を負い、イエスに従って行くべきなのでしょう。なぜならいのちは永遠であるからです。35節には、**35 自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音のためにいのちを失う者は、それを救うのです**とあります。イエスは、この驚くべき逆説を使って、ご自分に従って来ることが何を意味するのかを示しています。十字架を負うことは、確実に死に向かうことです。しかしイエスは、自分のいのちを守ろうとしてイエスに従って行かないのなら、逆にいのちを失うと言っています。自分の十字架を負うということは、自分の欲することを捨て、死に至る最も確実な道を進むことですが、これがイエスの道であり、確かないのちへの道であるということなのです。イエスはここで一体何を言わんとしているのでしょうか。イエスに従って来ない人、死んでいない人はたくさんいます。イエスを拒否し、そしてイエスに全く従おうとしないながら、幸せそうな人、満足している人、裕福な人、よい教育を受けた人、人、成功しているように見える人はたくさんいます。一方で、難病や苦境の中で深い絶望や苦しみ状態にあるクリスチャンがいます。このような人々のいのちを、福音、そしてイエスにつき従って行くことがどう救うというのでしょうか。イエスご自身が、**ヨハネの福音書 11章 25節**で答えを与えています。**25 イエスは彼女に言われた。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。**私たちのいのちは、肉体の死とともに終わるのではなく、その死の後にもいのちがあります。イエスがここで言っているいのちとは、このことです。イエスを知り、自分の主であり救い主としてつき従う者は、永遠のいのちを持つとイエスは言っているのです。**ヨハネの福音書 3章 16節**には、次のように書かれています。**16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。**滅びるとは、永遠に失われること、つまり神から引き離された永遠の死を迎えることを意味します。聖書では、その永遠が地獄という語で示され、永遠の刑罰を受ける場所、あるいは死に至るべき苦痛を永遠に受ける場所であることが明らかにされています。**マタイの福音書 25章 46節**では、地獄について、**46 こうして、この者たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入るのです。**と書かれています。私たちは、どこかで永遠に生きることになるのです。地獄において、私たちの罪に対する神からの正当な罰を受けて苦しむか、天において私たちの創造主である神と共に真のいのちを生きる永遠の喜びを享受するか、そのどちらかです。

そして、二つ目の答えが36節にあります。なぜ私たちは、十字架を負い、イエスに従って行くべきなのでしょう。なぜなら、真の益は、この世に根差したものではないからです。世のほとんどは、この世にいる間、自分の人生を自分の観点から見てより豊かにするために、できるだけ大きな益を求めて生きているでしょう。それはもちろん、私たち人間の考えの中では、正常なことです。私たちは、いろいろな形で益を求めます。お金という形かもしれませんが、財産、人間関係、家族、休暇や世界中を旅行するような経験、スポーツやコンサートのような娯楽活動という形かもしれません。これらはすべて、私たちの人生に、ある種の幸せと「益」の要素を加えるものです。この地上でのいのちという観点からすれば、これらには全て益があります。しかし、イエスは**36節**で、**36 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分のいのちを失ったら、何の益があるのでしょうか。**と言っています。真の幸福、真の益とは、私たちがこの物質的な世から得られるいかなるものにも、見出すことはできません。私たちに、生命を維持するためにある程度必要なものがありますが、人生の大半を費やしてそういったものを追い求め、先ほど見たように、どこかで生き続けることになる魂の霊的な必要に目を向けないでいれば、最終的には自分の破滅に至ります。使徒パウロは、**テモテへの手紙 第1章 8~9節**において、若き牧師テモテに対し、この世的な益のわなについて次のように警告を与えています。**6:8 衣食があれば、それで満足すべきです。9 金持ちになりたがる人たちは、誘惑と罠と、また人を滅びと破滅に沈める、愚かです。有害な多くの欲望に陥ります。**

37節に示されたイエスの3つ目の答えにおいても、私たちの永遠の魂が焦点となっています。なぜ私たちは、十字架を負い、イエスに従って行くべきなのでしょう。なぜなら私たちは、ある方に対し借りがあるからです。37節には、**37 自分のいのちを買い戻すのに、人はいったい何を差し出せばよいのでしょうか。**とあります。なぜこれが、私たちが負っている借りに関係するのかについては、

説明が必要です。このイエスの問いかけは、私たちの魂に何らかの問題があることを前提としています。実に、**エレミヤ書17章9節**において、神のことばが明らかにしています。⁹ **人の心は何よりもねじ曲がっている。それは癒やしがたい。だが、それを知り尽くすことができるだろうか。**この、人の心の癒やしがたい問題とは、私たち全てを蝕む罪のことです。**ローマ人への手紙3章23節**に、²³ **すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、**と書かれているとおりです。この罪の問題に対する唯一の答えは、イエスです。**ヨハネの手紙第一 2章2節**に、次のように書かれています。² **この方こそ、私たちの罪のための、いや、私たちの罪だけでなく、世全体の罪のための宥めのささげ物です。**私たちは、自分の罪のため、神の怒りを直接受けるべき対象です。つまり、さきほど見たように、地獄という永遠の行先が定められています。しかし聖書には明確に、イエスが神の怒りをご自分の上に引き受け、神の怒りを満足させる宥めのささげ物なのであると書かれています。つまり、イエスは、私たちを私たちの罪から贖うため、ご自分のいのちと全てを捧げ代価を払われたということです。そして、私たちの側では、自分の魂を救うためにできることは何もありません。**エペソ人への手紙2章8～9節**に、罪からの救いは私たちが起こせることではなく、神のわざであることがはっきりと書かれています。^{2:8} **この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。**⁹ **行いによるものではありません。だれも誇ることはないためです。**ですから、自分のいのちを買い戻すために、人はいったい何を差し出せばよいのでしょうか？何も差し出すことはできません！私たちが差し出すなものによっても、私たちの罪のための借りを返済することはできません。しかし、イエスが私たちを罪から救うため全てを差し出しました。ですから、私たちはイエスに、返すことのできない借りを負っているのです。このため、私たちは、自分の十字架を負い、イエスに従って行くべきなのです。

そして**38節**には、**イエスが示す第四の答え**があります。**なぜ私たちは、十字架を負い、イエスに従って行くべきなのでしょう？なぜなら私たちの栄誉がかかっているからです。**これが、**イエスが示す最後の答え**です。**38節**を見てみましょう。³⁸ **だれでも、このような姦淫と罪の時代にあって、わたしとわたしのことばを恥じるなら、人の子も、父の栄光を帯びて聖なる御使いたちとともに来るとき、その人を恥じます。**たちが生きる社会では、恥という概念が非常に重く考えられています。ここ日本での日常生活の多くの側面は、恥をかかないようにすること、そして他人に恥をかかせないようにすること、つまり、他人の前で名誉が傷つかないようにすることが重視されます。面目に細心の注意を払うのが常となっていますから、例えば高度なおもてなしなど、よいことも生まれていますが、はい、はい、はい、と答えながら、最後にちょっと難しいです…と間接的に断るような、もどかしい習慣も存在します。しかし、この地上で受け得る恥よりも、再び地上に来る救い主が私たちを恥じる可能性がある、という事実のほうがはるかに深刻です。自分の十字架を負うことは、この地上で恥を受けることを厭わないことです。そうすることで、私たちの罪という恥を、当時の最も恥ずべき形でご自身の上に負うことを厭わなかったお方が再び来られる際に、私たちはその方の前で栄誉を受けるからです。私たちはその方の栄光に共にあずかり、これは、立派なことをして社会において受けるどんな栄誉よりも大きなことです。イエスにつき従うということは、社会的に見れば恥と見られることがあっても、私たちを取りまく世を拒絶することです。十字架は恥の象徴でした。十字架を背負っていく生き方も、キリストに従って行くことが何を意味するかを理解しない多くの人からは、恥と見られるでしょう。しかし、私たちが恥の気持ちや社会において尊敬されたい、受け入れられたいという渴望のために、キリストにつき従う者であることを口にせず、身分を隠していることを選ぶならば、自ら十字架を負い私たちのために死なれた救い主キリストの前に立つとき、私たちは究極の恥に直面することになります。私たちは、いま私たちを囲んでいるこの世とは異なる存在です。ペテロの手紙第一に、私たちは本当に住むべき地から離れている寄留者であると書かれているとおりです。イエスが再び来て、真の住まいに着くまで、私たちは世にとって外部の者、外国人であるのです。私たちは、寄留者、外国人居住者のような生き方を選ぶのでしょうか？それとも、世と同じように生き、周りの人々が私たちを見たとき、私たちの真の国籍がどこにあるか、そして私たちの真の王であるイエスがどんな方であるか誰もわからないような生き方をするのでしょうか？それこそ、真に恥ずべき生き方です。

今日見てきた聖書箇所からは、キリストにつき従って行くことは、つらく困難であるという印象が強く感じられます。それでも私たちが苦難に耐え自分の十字架を負うよう駆り立てるのは、これまで見

てきた、いのちでは永遠であること、真の益はこの世に見出せるものではないこと、私たちはイエスに、返済できない借りを負っていること、恥じることなく神の前に立つには、イエスに従って行くことが必要であるということ、これらの真実です。しかし、イエスにつき従い続ける動機として、ほかにも何あるのではないのでしょうか。今日の聖書箇所最後の、9章1節を読むと、確かに何かがあると書かれているようです。^{9:1} **またイエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに言います。ここに立っている人たちの中には、神の国が力をもって到来しているのを見るまで、決して死を味わわない人たちがいます。」**この箇所については、少なくとも6通りの異なる解釈がありますが、それらを全て解説するのではなく、この箇所を文脈に沿って理解するための説明をしたいと思います。イエスは明らかに、この、自分の十字架を負うことについての教えを聞いている人々のうち、神の国が力をもって到来しているのを見るまで、死なない者がいると言っています。これには、2つの出来事が関わっていると考えられます。このすぐ後、私たちが変容と呼んでいる奇跡的な出来事が起き、何人かの弟子が、神の国の栄光の一端を垣間見ることとなります。しかし、この出来事だけではなく、今日の箇所でイエスの話を聞いている人々の多くが、その目でキリストの死と復活を見ることとなります。それは、神の力により、イエスを信じる全ての人のために、罪からの救い主が与えられるという歴史の全てが向かっていた頂点です。このキリストの死と復活により、地上にも神の国がもたらされます。そして私たちは、イエス・キリストへの信仰により、この世の王国から、神の王国へと導かれます。ヨハネの福音書18章において、イエスは十字架につけられる前に、尋問に答えてご自分の国を次のように説明しています。³⁶ **イエスは答えられた。「わたしの国はこの世のものではありません。もしこの世のものであったら、わたしのしもべたちが、わたしをユダヤ人に渡さないように戦ったでしょう。しかし、事実、わたしの国はこの世のものではありません。」**イエスがこの箇所で言われているように、私たちがキリストにつき従う者、キリストのしもべであるなら、キリストが築きつつある神の国の一部なのです。そしてこの国は、永遠の王国です。自分の十字架を負い、自分に対して死に、イエス・キリストとその栄光のためだけに生きること、私たちはこの国において自分の場所を用意してもらえます。ですから、十字架を負うことの苦難は全て、神の国を築くためなのです。この国では、もはや罪と恥とは取り除かれ、私たちには、主イエス・キリストにあっての永遠の喜びがあります。この、喜びという言葉が、イエスのメッセージから群衆の多くが受け取る印象と、キリストにつき従う者が、十字架を負って行くことに対する態度を分ける点です。**ヘブル人への手紙12章2節**には、次のように書かれています。² **信仰の仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをもともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。**十字架を負うことは、恥や痛み、命を落とす可能性をも伴いますが、主イエスが私たちの永遠の救いを買取のために歩んだ道、その同じ道を私たちが行くことで、神に栄光が帰されると知る喜びに満ちています。

私たちが自分の十字架を負い、イエスにつき従って行くとき、そこにはイエスに仕える喜びがあるのです。祈りましょう。

Mark 8:34-9:1 The call to be a disciple

Today, we are coming to the end of chapter 8, and really the turning point in the book of Mark that moves us from the high point of Peter's confession of Jesus as the Christ, which is where the first part of Mark has been heading. This passage moves us from that confession and begins to lead us on Jesus's journey to the cross. Last week we saw the first of three direct predictions Jesus will make of his coming crucifixion. And now, right after discussing his own coming cross, Jesus confronts those who would be his followers with the need for them, and for us, to be closely identified with him in that same crucifixion. You see, the statement of a disciple that Peter made in the last passage "You are the Christ," comes with an expectation of those who would say those and claim to follow him as their Christ, their Savior. Mark 8:34-9:1 tells us that **the call to be a disciple IS a call to the cross**. Let's read this entire passage as we begin today.

34 And calling the crowd to him with his disciples, he said to them, "If anyone would come after me, let him deny himself and take up his cross and follow me.

35 For whoever would save his life will lose it, but whoever loses his life for my sake and the gospel's will save it. 36 For what does it profit a man to gain the whole world and forfeit his soul? 37 For what can a man give in return for his soul? 38 For whoever is ashamed of me and of my words in this adulterous and sinful generation, of him will the Son of Man also be ashamed when he comes in the glory of his Father with the holy angels." 9:1 And he said to them, "Truly, I say to you, there are some standing here who will not taste death until they see the kingdom of God after it has come with power."

Jesus here makes one clear and powerful declaration about what it means to be a disciple. He made this declaration not only to his 12 disciples, but it was a call to discipleship to all the crowd who followed him. So, this call is given to those who are considering what it means to be a follower of Christ as well as those who already follow Christ. To accept Jesus as your Lord and Savior is to accept a life defined by the words, "If anyone would come after me, let him deny himself and take up his cross and follow me." For all of us today living in the 21st century, these words have lost much of their original impact. Remember, Jesus has not died on the cross yet. Only his 12 disciples have even heard from him in a clear way regarding God's plan for God the Son to go to the cross. So, for those listening, there is no connection to eternal salvation, rather the automatic response is one of repulsion and disgust. The cross was a symbol of the worst of Roman society. Thousands upon thousands of criminals were executed in this way, and although other societies used crucifixion, Rome had done everything possible to prolong the agonizing death that it brought. It was bloody and hard to look at, and the Roman authorities would perform these executions in areas where anyone entering into or exiting out of cities would see them, so it would serve as a warning to others. Just as Jesus would do in the future, the condemned criminal would drag the symbol of their shame, the very cross that they would be put to death on through the streets of the city to the place of crucifixion. So, when Jesus says "take up [your] cross and follow me," he is painting a picture of horrible suffering, of a burden too great to bear that led to certain death. But, Jesus doesn't try to "sugar coat" his call, or make it easier to hear. The call to discipleship is a call to not live for yourself, but to obey Jesus in such a way that it will be shameful in the eyes of the world, and would willingly place you under some sort of painful and difficult persecution.

So, keep in mind that Jesus has not died yet and very few listening knew that the cross was in his future. But they understood well what type of life he was calling them to as

his follower when he said that. Given that information, if you were in that crowd, would you be raising your hand to volunteer to follow him? Let's be honest, not a lot of us would be jumping into that group of followers. And, in fact, the closer we get to the cross, the smaller the crowds become until the crowds are yelling, "Crucify him, crucify him!" So, why follow Jesus, why go through the suffering, the shame, the rejection by this world? Why take up an instrument of death to your very life in order to follow Jesus? Jesus gives us 4 answers why as these verses continue. **We see the first answer in verse 35. Why should we follow Jesus by taking taking up a cross? Because life is eternal.** Verse 35 says, **35 For whoever would save his life will lose it, but whoever loses his life for my sake and the gospel's will save it.** Jesus gives us this incredible paradox of what it means to follow him. To take up a cross would have meant to be on your way to certain death. But Jesus says, if you try to avoid following me in order to preserve your life, that will actually end in you losing your life. On the other hand, to take up your cross, which would mean rejecting your own self interest and allowing yourself to go to what most certainly will end in death, but it is the way of Jesus, leads to certain life. Now what does he mean by this. There are plenty of people not following Jesus who are certainly not dying. They are living lives rejecting Jesus and any attempt to obey him and yet, they seem happy and satisfied and wealthy and educated and successful. On the other hand, there are Christians who are in deep states of despair, suffering from incurable diseases and difficult circumstances. How is the gospel and following Jesus saving their life? Jesus himself gives us the answer in [John 11:25](#) **25 Jesus said to her, "I am the resurrection and the life. Whoever believes in me, though he die, yet shall he live..."** Our physical life is not the end, there is life after death, and Jesus is talking about that life. For those who know Jesus and follow him as their Lord and Savior, Jesus says they have eternal life. [John 3:16](#) tells us, **16 "For God so loved the world, that he gave his only Son, that whoever believes in him should not perish but have eternal life.** To perish means to be eternally lost, to face an eternal death separated from God. The Bible describes that eternity by the word hell, and declares it to be a place of eternal punishment or eternally suffering the pain that should lead to death. [Matthew 25:46](#) says about hell, **"46 And these will go away into eternal punishment, but the righteous into eternal life."** You will live somewhere forever. Either it will be in hell suffering God's just divine punishment for your sin...or in Heaven experiencing the eternal joy of real life with your Creator God.

But there is a second answer given in verse 36. Why should we follow Jesus by taking taking up a cross? Because real profit is not based in this world. The way that most people in this world live is by seeking as much profit as they can find to make their lives better off in their view during their time on this earth. Now this is of course normal in our human way of thinking. We look for profit for us in many ways. It may be money, but it also might be possessions, relationships, family, experiences like taking vacations and traveling around the world, or experiences like sports or entertainment activities like concerts. All of these things add certain elements of happiness and "profit" to our lives. There is gain in all of these things from the perspective of life here on earth. But then we read what Jesus goes on to say in verse **36. For what does it profit a man to gain the whole world and forfeit his soul?** Real benefit, real profit in this life is not found in anything we can gain in this physical world. And while we need some things to sustain life itself, to spend the majority of our time seeking those things and neglecting the spiritual needs of our souls which we just discussed will live eternally somewhere will lead to our ultimate destruction. The Apostle Paul warns the young pastor Timothy of

this trap of worldly profit in [1 Timothy 6:8-9](#), [8 But if we have food and clothing, with these we will be content.](#) [9 But those who desire to be rich fall into temptation, into a snare, into many senseless and harmful desires that plunge people into ruin and destruction.](#)

Our eternal soul continues to be in focus in **Jesus's third answer in verse 37. Why should we follow Jesus by taking taking up a cross? Because we owe someone a debt.** [Verse 37 says, For what can a man give in return for his soul?](#) I need to explain why I say this is about a debt we owe. Jesus's question here is assuming there is a problem with our soul. And in fact, in [Jeremiah 17:9](#), God's Word makes clear that, ["The heart is deceitful above all things, and desperately sick; who can understand it?"](#) This sickness of our hearts is sin which affects all of us. [Romans 3:23 says, 23 for all have sinned and fall short of the glory of God.](#) The only answer for that sin is Jesus. [1John 2:2 says, 2 He is the propitiation for our sins, and not for ours only but also for the sins of the whole world.](#) Our sin puts us directly under the wrath of God...that is the eternal destination of hell that we discussed earlier. But the Bible is clear that Jesus is the propitiation...the one who satisfies God's wrath by taking it on himself. In other words, he paid the price and gave everything he had with his own life to redeem us from our sin. And the fact is that there is nothing we can do to save our own soul. [Ephesians 2:8-9 makes clear, salvation from sin is not our work, but God's. 8 For by grace you have been saved through faith. And this is not your own doing; it is the gift of God, 9 not a result of works, so that no one may boast.](#) So, what can a man, a human, give in return for his soul? Nothing! Anything we give will never pay the debt for our sin. But, Jesus gave everything to save us from sin, to save our eternal soul, and we owe him a debt we can never repay. For that reason, we should take up our cross and follow him.

But there is a fourth answer that Jesus gives in verse 38. **Why should we follow Jesus by taking taking up a cross? The final answer Jesus gives is because our honor is at stake.** Look at verse 38. [38 For whoever is ashamed of me and of my words in this adulterous and sinful generation, of him will the Son of Man also be ashamed when he comes in the glory of his Father with the holy angels.](#) The society we live in is very much concerned with the concept of shame. Many aspects of day to day life here in Japan are about not losing face or causing someone else to lose face, in other words to lose honor in the eyes of other people. It is common here to be so careful about this that it leads to many positive things like great customer service (omotenashi), and some things that can be frustrating like a very indirect way of communicating where a series of yes's (hai, hai, hai) can actually be leading to an indirect answer of no (chotto...muzakashi). Far more serious than the shame we face here on earth is knowing that we could be looked on with shame by our Savior when he returns. To take up our cross means to be willing to be looked at with shame here on this earth so that when the one who was willing himself to take the shame of our sin on himself in the most shameful way possible at that time, returns, we are honored in his sight. We join in his glory, that is greater than any honor that can be conveyed by a society for acting in an honorable way. Yes, following Jesus means that we are rejecting the world around us in such a way that it can bring shame in the eyes of society. The cross was shameful and lifestyle of cross-carrying will be viewed as shameful by many who do not understand what it means to follow Christ. But if we out of a sense of shame and a desire to be respected and included in the eyes of our society, choose to be silent and undercover as a follower of Christ, then we will face the ultimate shame when we stand before our Savior, who

took up his cross and died for us. We are different from the world around us, because as the Biblical book of 1 Peter tells us, we are exiles, who are away from our true place of residence...we are outsiders... we are Gaikokujin in this world, until Jesus returns and we go to our true home. Are we going to live like exiles, like expats, or are we going to be so much like the world around us that no one knows where our true citizenship lies and who our true king, Jesus, is. That is a truly shameful way to live.

There is a strong sense in these verses that following Christ will be hard and difficult. But the fact that life is eternal, that real profit cannot be found in this world, that we owe Jesus a debt we can never repay, and that standing before God unashamed requires it, pushes us to endure the hardships that come when we take up our cross. But is there more that we can see and experience that will keep us following Christ? The Bible seems to answer yes, when we read the final verse of this passage which is actually verse 1 of Chapter 9. **9 And he said to them, "Truly, I say to you, there are some standing here who will not taste death until they see the kingdom of God after it has come with power."** There are at least 6 different understandings of this verse, but rather than going over all of them, let me just try to help us understand it in context. He is clearly saying that some of those hearing this teaching about taking up their cross will not die before they see God's kingdom come in power. It seems possible that this is referring to two different events. Right after this, a miraculous event we call the transfiguration takes place which gave a glimpse of the glory of God's kingdom to some of the disciples. But even beyond that event, many of these listening will see first hand the death and resurrection of Christ which is what all of history was leading to as God's power provided a Savior from sin for all who will believe in Jesus. Christ's death and resurrection are what makes possible the kingdom of God here on earth. We are moved from the kingdom of this world to the kingdom of God through faith in Jesus Christ. In John 18, when Jesus is put on trial before his crucifixion, he responds to questioning by explaining his kingdom. **John 18:36 says, 36 Jesus answered, "My kingdom is not of this world. If my kingdom were of this world, my servants would have been fighting, that I might not be delivered over to the Jews. But my kingdom is not from the world."** If we are followers, or servants of Christ, as he says here, we are a part of God's kingdom that he is building. And that kingdom is eternal. By taking up our cross, being willing to die to self and live to Jesus Christ and his glory alone, we are assured of a place in that kingdom. So, the hardship of carrying the cross is all for the purpose of building a kingdom where sin and shame are no more and eternal joy is ours through Jesus Christ our Lord. That word joy is what separates how the crowds would have heard this message from Jesus and how the follower of Christ looks at carrying the cross. **Hebrews 12:2 says, 2 looking to Jesus, the founder and perfecter of our faith, who for the joy that was set before him endured the cross, despising the shame, and is seated at the right hand of the throne of God.** You see taking up the cross, while bringing shame and pain and possible death is filled with the joy of knowing that God is glorified and that you are walking the path that our Lord himself walked on His way to purchase our eternal salvation. There is joy in serving Jesus that comes with taking up our cross and following him. Let's pray.